滋賀県は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和6年度

プラスチックごみゼロ・食品ロス削減・3R 取組事例集

令和6年（2024年）11月

滋賀県

目　次

プラスチックごみ／食品ロス／3R　現状と課題 ……… 1

プラスチックごみ削減の取組紹介

vol.1　株式会社島津製作所 ……… 2
vol.2　くら寿司株式会社 ……… 3
vol.3　株式会社ニイタカ ……… 4
vol.4　大東電材株式会社 ……… 5
vol.5　株式会社ファミリーマート ……… 6
vol.6　キリンビバレッジ株式会社 滋賀工場 ……… 7
vol.7　日野精機株式会社 ……… 8
vol.8　ONE SLASH株式会社 ……… 9
vol.9　滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合 ……… 10
vol.10　ウォータースタンド株式会社 ……… 11
vol.11　クサツエストピアホテル ……… 12

食品ロス削減の取組紹介

vol.1　くら寿司株式会社 ……… 13
vol.2　社会福祉法人近江ちいろば会 ケアハウスピスガこうせい ……… 14
vol.3　たねやグループ ……… 15
vol.4　ねこライフ ……… 16
vol.5　一般社団法人フードバンクながはま ……… 17
vol.6　株式会社ファミリーマート ……… 18
vol.7　鯖寿司・焼き鯖寿司専門店さんとく三太郎 ……… 19
vol.8　株式会社バローホールディングス ……… 20
vol.9　FUSE ～フューズ～ ……… 21
vol.10　株式会社FastFitnessJapan ……… 22

3R（循環資源の再使用・再生利用等）の取組紹介

vol.1　株式会社大木工藝 ……… 23
vol.2　有限会社ヤマダ油脂 ……… 24
vol.3　株式会社ケントム ……… 25
vol.4　Aカンパニー ……… 26

令和5年度「滋賀県食品ロス削減優良取組表彰」受賞者紹介

田中酒造株式会社 ……… 27
一般社団法人フードバンクながはま ……… 28
農業生産法人株式会社アグリケーション ……… 29

本冊子では、県内においてプラスチックごみや食品ロス削減を始めとする3Rの取組を積極的に行われている事業所や施設・店舗、団体等の取組事例を紹介します

3Rで目指す社会

滋賀県では、令和元年8月、事業者、県民団体、行政を構成員とする「滋賀県買い物ごみ・食品ロス削減推進協議会」と県との連名で、「滋賀県プラスチックごみゼロ・食品ロス削減宣言」を行い、ごみを出さないライフスタイルへの転換を目指して、これまでの取組を活かしつつ、より一層3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組を推進することにしました。リデュースはごみの発生そのものを抑制すること、リユースは何度も繰り返し使用すること、リサイクルは再び原材料として利用することです。

3Rの取組の推進を通じて、温室効果ガスを削減しCO_2ネットゼロに寄与するとともに、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済社会システムを見直し、循環型社会の形成を目指します。

宣言の詳細は、滋賀県ホームページをご覧ください ▶▶▶

プラスチックごみ削減に向けた取組の状況

世界では、プラスチックごみが河川等を通じて内陸から海へ流れ込み、生態系を含めた環境の悪化をもたらしており、大きな課題となっています。さらには、近年、マイクロプラスチックによる環境への影響についても懸念されています。

こうした中、国は、プラスチックのライフサイクルに関わるあらゆる主体におけるプラスチックの資源循環の取組を促進することを目的に、令和4年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を施行しました。

県では、令和3年3月に県民や事業者等のプラスチックごみ削減の手引きとなる「滋賀プラスチックごみゼロに向けた実践取組のための指針」を策定し、ごみを出さないライフスタイルへの転換を目指して、県民、事業者、団体、行政等がそれぞれ役割を分担し、互いに連携・協力しながら、プラスチックごみゼロに向けた取組を推進しています。

((「しがプラスチックごみ削減行動宣言」の実施事業者募集))

令和4年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行されたことを踏まえ、使い捨てプラスチック製品の使用の合理化や事業活動に伴うプラスチックごみの発生抑制等の取組を実践する事業者の宣言を募集しています。この宣言を広く県民等へ周知することで、全県的な取組の拡大につなげていきたいと考えています。（宣言書の様式は、右の二次元バーコードからダウンロードできます。）

食品ロス削減に向けた取組の状況

我が国では、まだ食べることができる食品が日常的に廃棄され、大量の食品ロスが発生しています。日本の食料自給率は低く、食料の多くを海外からの輸入に依存する中、世界では深刻な飢えや栄養不良で苦しむ人々が存在しており、食品ロスの削減は真摯に取り組むべき課題です。

滋賀県では、事業者、関係団体、学識経験者、国・県・市町等が連携協力を図りながら、近江商人が大切にしてきた「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコプロジェクト」を立ち上げ、食品ロス削減に向けた取組を推進してきました。一方、国においても、令和元年5月に「食品ロス削減の推進に関する法律」を制定し、食品ロスの削減を「国民運動」として位置付けるなど、削減の機運はますます高まっています。

こうした状況を踏まえ、県は令和3年3月に食品ロス削減の取組を具体化した「滋賀県食品ロス削減推進計画」を策定し、より一層取組を推進しています。

滋賀県食品ロス削減推進計画の詳細 ▶▶▶ 裏表紙参照

プラスチックごみ
削減の取組紹介
vol.1

株式会社島津製作所（京都市）

プラスチックごみを減らそう！

廃プラスチック梱包材の自己循環利用

当社は、1875年に京都で創業した、分析計測器や医用画像診断機などを開発、製造、販売している会社です。

当社は環境経営を推進しており、その中で新品の素材から製造されたプラスチックであるヴァージンプラスチックの使用量削減を検討してきました。そこで、社内で使用している使い捨てのプラスチック製品を洗い出し、取り組みのターゲットとすることとしました。

当社の研究開発部門などでは、事業の中で発生する廃液をプラスチック容器に入れたまま廃棄します。そこで、廃液を入れる容器として、自社で廃棄する予定のプラスチック梱包材をブレンドした容器を製作しました。現在では、この再生プラスチック含有容器が本社工場エリアで採用されています。

従来、廃液とともに廃棄されるプラスチック容器は、本社工場エリアで年間約1000~1200個使用されます。これらの容器を再生プラスチックが含有されたものにすることで、ヴァージンプラスチックの利用量を年間0.2～0.25t削減することができると考えています。

今後は、社内の他の事業エリアとともに、近隣の事業者にもこの枠組みに参加していただき、プラスチック循環の規模拡大を目指しています。すでに龍谷大学様とは「資源循環に関する包括連携協定」を締結し、その中でこの取り組みにも参加していただく事になっています。

再生プラスチック含有容器

株式会社島津製作所

住所：京都市中京区西ノ京桑原町１ **TEL**：075-823-1111　**FAX**：075-823-2062
HP：https://www.shimadzu.co.jp/
設立：1875年3月　**資本金**：26,648百万円
業種：分析・計測機器、医用機器、航空機器、産業機器の研究開発・製造・販売。

当社はサーキュラーエコノミーへの移行に向け、「サスティナブル素材普及委員会」を立ち上げ、当社の製品や周辺機器、備品などのプラスチックに対して、サスティナブルな素材(再生プラスチック・バイオマスプラスチック・紙などのプラスチック以外の素材）の採用を推進しています。今回紹介する取り組みはその中から生まれた取り組みです。

マネージャー
三ツ松 昭彦さん

プラスチックごみ
削減の取組紹介
vol.2

くら寿司株式会社（大阪府堺市）

プラスチックごみを減らそう！

環境に優しい「ビッくらポン！」

くら寿司は、全食材において四大添加物無添加で「安心・美味しい・安い」をコンセプトに、全国に530店舗以上を展開しております。（2023年7月末時点）

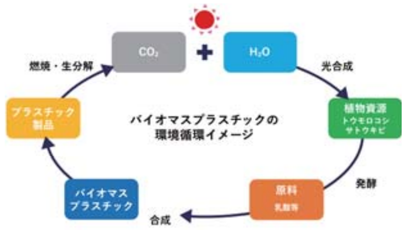
近年、環境問題はますます深刻化しており、「脱プラスチック」に向けた動きが世界中で広がっています。くら寿司では、環境に配慮した取り組みの一環として、ストローレスのカップを採用するなど、これまでもプラスチックごみの削減に努めてまいりました。

くら寿司の代名詞ともいえる「ビッくらポン！」は、食べ終えたお皿をテーブルに設置した投入口に5枚入れるとゲームが始まり、「当たり」が出るとオリジナル景品が手に入る、お子様を中心に人気のシステムです。通常はプラスチックを使用していますが、一部の店舗では試験的に、環境にやさしいガチャ玉を導入しています。でんぷんとパルプを使うPIM技術を用いた紙カプセルを使用した世界初のガチャ玉で、燃やしても有害物質が発生せず、リサイクル利用も可能です。

紙カプセルを使用した
世界初のガチャ玉

また、お持ち帰りの袋は環境にやさしいバイオマスビニール袋を使用しています。プラスチック製から切り替えたお持ち帰り用の袋は、再生可能なサトウキビやトウモロコシ等の植物成分を原料の一部に活用した「バイオマスプラスチック」を25%配合しており、マイクロプラスチックの削減に加え、二酸化炭素の排出量の削減効果が期待されます。

当社では、これからも水産物を扱う企業として、海洋資源の保護と持続可能な社会の実現を目指して、環境に配慮した取り組みをより一層強化してまいります。



くら寿司株式会社

住所：大阪府堺市中区深阪1-2-2
HP：https://www.kurasushi.co.jp/
設立：平成7年　**資本金**：20億532万円
業種：くら寿司は、全食材において化学調味料・人工甘味料・合成着色料・人工保存料の四大添加物無添加で「安心・美味しい・安い」をコンセプトに国内に530店舗以上、アメリカ・台湾・上海の海外に102店舗を展開。（2023年7月末時点）

くら寿司では実はSDGsという言葉ができる前から漁業創生に向けた取り組みを行っています。今後も、水産物を扱う企業として、豊かな海を未来につないでいく取り組みはもちろん、快適な店舗づくりにも力を入れ、お客様へ“美味しさ”と“楽しさ”を提供してまいります。

広報・マーケティング本部
広報部
岡本 愛理さん

プラスチックごみ削減の取組紹介
vol.3

株式会社ニイタカ（大阪市）

プラスチックごみを減らそう！

業務用洗剤のパウチ包装品への切替

当社は業務用洗剤メーカーです。レストランや食品スーパー、食品工場など、フードビジネスで使われる洗剤、洗浄剤を主に製造販売しています。

西の生産拠点として1997年に完成したのが、びわ湖東部中核工業団地（多賀町）にある「びわ湖工場」で、現在約70名が生産に従事しています。

当社は創業以来、環境に配慮した製品づくりを進めてきました。21世紀に入り、これからはプラスチックごみ削減が重要課題となると考え、15年前からパウチ包装品の本格生産に乗り出しました。

◀食器用洗剤 マイソフトコンク1kgパウチ

マイソフトコンク用▶ 詰替え希釈ボトル ※繰り返し使用

移し替えしやすい、注ぎ口が広い当社オリジナル設計

業務用食器用洗剤では、一般的な大容量プラスチックボトル品（4kg）について、パウチ包装品（1kg×4袋）へと切替を進めています。濃縮タイプのため、お客様が詰替え用ボトルに移し替え、水で4～5倍に薄めてから使います。これにより配送時のCO_2削減とプラスチックごみの削減を実現しました。

詰替え後、パウチ包装フィルムはコンパクトに捨てることができます。

上記例では、プラスチックが約100g削減できます。（当社品での場合）年間では合計30トン程度の削減効果となります。

最近では業務用洗剤でも、ecoを意識してパウチ包装品の採用が増えています。この分野の開拓企業として、さらなる切替を推進していきます。

びわ湖工場

株式会社ニイタカ

住所：大阪市淀川区新高1-8-10
TEL：06-6391-3266　**HP**：https://www.niitaka.co.jp/
設立：1963年4月　**資本金**：5億8,519万円
業種：業務用洗剤、洗浄剤、食品添加物（殺菌料）、医薬部外品の製造販売・業務用固形燃料の製造販売・衛生管理支援サービス等の提供

パウチ包装品を発売した頃（2008年）は、「詰め替えて水で薄めるのが手間」と言われ、販売活動では苦労しました。しかし、環境意識の高まりにより、今では大手ユーザー様から「ゴミを減らせる洗剤はありがたい」と評価されるなど、着実に変化してきています。
これからも歩みを止めること無く、プラスチックごみの削減につながる製品改良に組んでまいります。

サステナビリティ・IR推進室　室長 古里 宏司さん

プラスチックごみ削減の取組紹介
vol.4

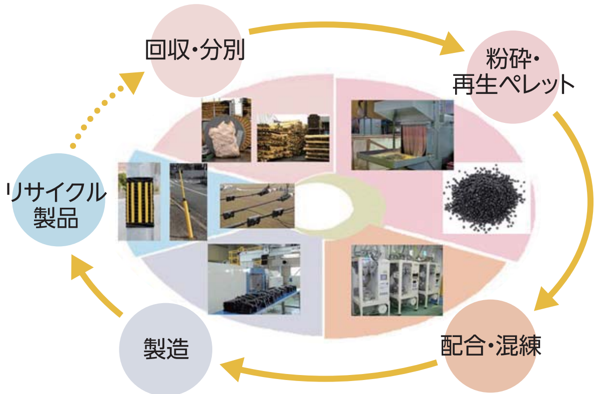
大東電材株式会社（彦根市）

プラスチックごみを減らそう！

廃プラスチックのリサイクルの取り組み

弊社は1948年に創業して以来、電力、通信、ガス、水道、鉄道などの社会インフラ整備関連事業に必要なプラスチック製品や工具を提供しております。

私たちが生産し販売してきた数多くのプラスチック製品のうち、役目を終えたものも有効利用できないものかと考え、30年程前から、使用済のプラスチック製品の回収から素材として再生に至るまでの循環利用を、お客様はじめ物流、リサイクル業者の皆様と共に取り組んでいます。例えば、10年、20年という長い年月屋外で使用されてきた街中の電柱周りで目にする支線ガード（※1）や電線に取り付いている絶縁カバー（※2）などのプラスチック製品を、回収・分別・粉砕・再生ペレットへ加工し、同製品にもどすクローズドループリサイクルを運用しています。年間約90tを再利用し、廃棄物削減につながっています。



支線ガード

絶縁カバー

再生ペレット

※1 支線ガード：支線に取り付け通行人や車両などに注意喚起します
※2 絶縁カバー：電線の充電部の絶縁防護に使用します

また、プラスチック製品の生産工程においては、原材料を無駄なく使うために、発生する生産ロスなどの廃プラスチックのリサイクル活動を推進し、持続可能な運営をしています。

大東電材株式会社

住所：滋賀県彦根市野口町1　**TEL**：0749-25-2663　**FAX**：0749-25-2768
HP：https://www.daito-d.co.jp/
創業：1948年 9月　**資本金**：1億円
業種：電力・通信・ガス・水道事業およびその関連業界向け設備用資機材、安全標識、安全防具、安全保護具、工具類、防食・配管機材、環境機材等の製造・販売

彦根事業所長
山口 卓弥さん

例えば、電柱周りに取り付けられた黄色いパイプ状の「支線ガード」や、電柱に巻き付いている黄/黒色縦ジマで薄板状の「標識板」をはじめ、日本中、どこでも自社製品を見られることが、弊社のちょっとした自慢です。微力ながら、日本のインフラを支える仕事に携わらせていただいていることを誇りに、日々、プラスチックを主材としたモノづくりにおいて、地球環境への負荷低減や、地球環境に優しい製品の開発に取り組んでおります。
これからも、未来へ美しい琵琶湖を引き継げる様、「プラスチックごみゼロ」を目指して貢献して参ります。

滋賀県のプラスチックごみ削減の取組等に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

プラスチックごみ
削減の取組紹介
vol.5

株式会社ファミリーマート（東京都）

プラスチックごみを減らそう！

環境配慮型素材の使用推進

ファミリーマートでは、プラスチック対策としてオリジナル商品の容器・包装に環境配慮型素材の使用を進めており、2030年までに60%、2050年までに100%を目指しています。オリジナル商品のほか、用度品を含めた環境配慮型素材の割合は2030年までに70%を目指しています。

プラスチック対策

環境配慮型容器包装-オリジナル商品に環境配慮型素材を使用

2030年 60% ▶ 2050年 100%

（取組内容）容器・包材に植物を原料にしたバイオマスプラスチックや再生PETを配合するなど、環境配慮型素材の使用を進めます。

オリジナル商品のほか、レジ袋へのバイオマス配合なども進めることで、用度品含めた環境配慮型素材の割合は2030年までに70%を目指します。

オリジナル商品に環境配慮型包材を採用

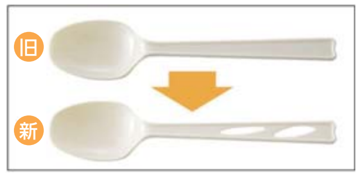
パスタ商品やおむすびなど中食商品の一部は、バイオマスプラスチックなどを使用した環境配慮型包材を採用しています。また、パスタ商品やおむすびには一部バイオPP（※1）を使用しており、マスバランスアプローチ（※2）によるバイオPP容器包装を使用した商品化は、日本初（※3）の取組みとなります。

（※1）原料として植物などのバイオマス資源を原料とするポリプロピレンの略称。（※2）ここでは、バイオマス由来原料の投入割合に応じて、そのバイオマス分を製品の一部に割り当てる考え方。
（※3）伊藤忠商事調べそれぞれ2022年までの導入時点。

バイオマスプラスチックなどを使用した環境配慮型容器

用度品の対応

2021年5月、スプーンの持ち手部分のデザインを変更して、プラスチック使用量を約12%削減しました。また、プラスチック量削減を目的に、店頭でのプラスチック製フォークの提供を原則取りやめています。フォークをご希望するお客様には、フォークの代わりに竹箸を提供します。なお、箸に不慣れなお客様などフォークを必要とされる方には、お客様のご希望に応じて、フォークの提供を継続します。



詳しくは、当社のホームページをご覧ください。

株式会社ファミリーマート

住所：東京都港区芝浦三丁目1番21号
HP：https://www.family.co.jp/sustainability.html
設立：1981年9月1日　資本金：16,659百万円
業種：コンビニエンスストア

ファミマecoビジョン 2050

ファミリーマートは環境問題をはじめとする社会課題の解決や持続可能な社会の実現に貢献するため、2030年及び2050年に向けた中長期目標として「ファミマecoビジョン」を策定いたしました。「ファミマecoビジョン」では、「プラスチック対策」のほか、「温室効果ガス（CO_2排出量）の削減」、「食品ロスの削減」を合わせた3つのテーマに基づき中長期的な数値目標を設定し、目標達成に向けた取り組み推進を目指します。

マーケティング本部
サステナビリティ推進部
環境推進グループ
マネジャー 原田 公雄さん

プラスチックごみ
削減の取組紹介
vol.6

キリンビバレッジ株式会社 滋賀工場（多賀町）

プラスチックごみを減らそう！

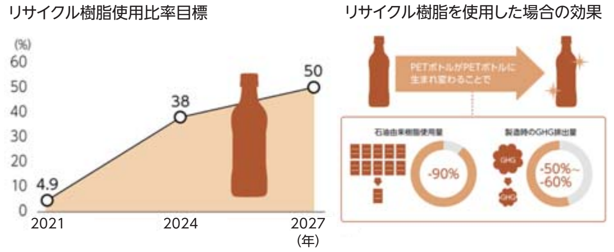
PETボトルリサイクルの取り組み

キリンビバレッジ（株）滋賀工場は、2014年1月に、西日本における清涼飲料の生産拠点として誕生しました。長年培ってきたキリングループの基本姿勢である「品質本位」「お客様本位」のもと、お茶、コーヒー、炭酸など様々なペットボトル製品を製造し、西日本を中心としたお客さまにお届けしています。

現在キリングループでは、「PETボトルが循環し続ける社会」の実現に向けた取り組みを推し進めています。2019年には「キリングループプラスチックポリシー」を策定し、2027年までに日本国内におけるPET樹脂使用量の50%をリサイクル樹脂とすることを宣言しました。

プラスチックポリシー

2027年までに日本国内におけるPET樹脂使用量の50%をリサイクル樹脂とする。（2020年時点では6.2%）



具体的な取り組みとしては、再生PET樹脂を100%使用した「R100ペットボトル」の採用を順次拡大しています。「午後の紅茶」や「生茶」等の主要な製品は、「R100ペットボトル」を使用しております。

ソフトドリンク

再生PET樹脂は、一般的な石油由来PET素材に比べて石油由来樹脂使用量を90%、温室効果ガス排出量を50～60%削減することができるため、非常に大きな削減効果につながります。

「R100ペットボトル」では、再生PET素材をPETボトル原料として使用する「メカニカルリサイクル」の技術を採用していますが、使用済みPETボトルのみを対象とした循環リサイクルになります。今後は、使用済みPETボトル以外のPET製品もPETボトルとして再生が可能となる「ケミカルリサイクル」の実用化を検討しています。

キリンビバレッジ株式会社 滋賀工場

住所：滋賀県犬上郡多賀町敏満寺1600番地　TEL：0749-48-7115　FAX：0749-48-1659
HP：https://www.kirin.co.jp
設立：2014年1月　資本金：84億1,650万円（キリンビバレッジ（株）資本金）

工場見学のご予約

事業概要：2014年1月　2つのペットボトル商品製造ラインを持つ西日本の清涼飲料生産拠点として誕生しました。年間約1,900万箱のペットボトル商品を製造しています。プリフォームと呼ばれる素材からペットボトル容器を成形し、無菌状態で充填する「インラインブロー無菌充填システム」を導入しています。食品安全システムに関する国際規格「FSSC22000」の認証取得及び「廃棄物ゼロ」「再資源化率100%」を実現しています。

キリングループは業界を挙げて3Rを推進し、廃棄物再資源化100%達成に向けて取り組んでいます。プラスチックポリシーを実現しプラスチックが循環し続ける社会を目指してまいります。　製造担当　白木 佳代子さん

日野精機株式会社（日野町）
（技術協力会社:バイオエックス株式会社）

植物由来のPLA（ポリ乳酸）樹脂（純度100%）を活用した製品

弊社は音響機器、医療機械、その他産業機械部品の金属加工から樹脂成型品製造まで、様々な分野の部品製造を行っております。

この度、サトウキビの搾りかすやトウモロコシの非可食部分のでんぷんを抽出し生成する植物由来の樹脂、PLA（ポリ乳酸）樹脂を活用した製品開発に取り組み始めました。この樹脂はリサイクルが容易で、生分解性もあり環境にやさしい材料です。これまでのPLA樹脂は耐熱性が無く、約55℃で変形してしまうため、商品の使用、輸送、保管に適しておらず使用範囲は限られておりました。しかしこの度、バイオエックス株式会社の技術協力で、150℃までの耐熱化に成功し、石油由来の樹脂製品からの代替が検討できるようになりました。今後、様々な分野で商品化に向けた取り組みを行い、琵琶湖のプラスチックごみ削減に寄与して参りたいと考えております。

櫛

歯ブラシ

カルトン

容器

スプーン

日野精機株式会社（技術協力会社:バイオエックス株式会社）

住所：滋賀県蒲生郡日野町西大路2140（彦根市芹町9-10）
TEL：0748-52-1075　**FAX**：0748-52-1065　**HP**：http://www.hinoseiki.com
設立：1978年7月　**資本金**：23,200千円
業種：音響機器関連製品・医療系機械部品・産業用機械部品製造

PLA樹脂は、純度100%においては約55℃の熱で変形してしまう性質から、工業用製品としては普及していませんでした。現在、バイオエックス株式会社の耐熱化技術により開発した製品が、工業用製品としての適格水準をクリアするための研究を進めております。日常生活においても代替可能な商品は無限にあり、今後、幅広い分野への代替普及を行って参ります。

代表取締役　福田 弘さん

ONE SLASH株式会社（長浜市）

資源米の栽培によるCO_2排出量削減の取り組み

長浜市西浅井町で活動する「ONE SLASH/RICE IS COMEDY®」は、幼馴染5名で構成される兼業農家集団です。各自が建設、不動産、アパレル、製造業など様々な分野の本業に従事しながら、「きつい・汚い・儲からない」といった農業・一次産業に持たれがちなイメージをポジティブに変える活動を行っています。

活動の中で、お米由来のプラスチックである「ライスレジン」に着目しました。ライスレジンとは、割れ米や古米などを活用し、バイオマスプラスチックへアップサイクルしたものです。ライスレジンを活用することで、従来の石油由来のプラスチックを削減することができ、石油使用量やCO_2排出量の削減につながります。

ライスレジンを使用した商品

加えて、お米の新たな需要につながるため、お米作りの新しい価値を生み出し、農業の可能性を広げ地域産業の活性化に貢献することができます。

◀資源米
（品種:さくら福姫）

農業体験
（刈り取り体験）の様子▶

私たちは、長浜市において、ライスレジンの原料となる資源米（さくら福姫）を栽培し、製品化を進めるとともに、地元の農業振興と環境保全の両立を目指します。YouTube活動や地域イベントを通じた地域の活性化にも貢献していきたいと考えています。

MLGs分野別大使第1号
ふるさと活性化大使に任命▶

ONE SLASH株式会社

住所：滋賀県長浜市西浅井町庄979-1
TEL：090-2105-5104　**HP**：https://oneslash.jp
設立：2016年12月
事業の目的：すべてのための１、みんなのための１、あなたのための１。あらゆる分母の、大切な１（ONE）に。

私たちは、お米の新たな可能性を探求し、現在の取り組みを基に、農業と一次産業の未来を広げています。この活動を通じて、関わる人々に農業の魅力と可能性を伝え、さらにその活動を進化させていきたいと考えています。特に、次世代である子供たちに対して、持続可能な農業の重要性とその可能性を伝え、彼らの未来へ繋げていくことを目指しています。

代表取締役　清水 広行さん

滋賀県のプラスチックごみ削減の取組等に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

プラスチックごみ
削減の取組紹介
vol.9

滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合

プラスチックごみを減らそう！

2030年までにプラスチックアメニティの提供を0にする

私たちは、滋賀県下の旅館やホテルなどの宿泊業204軒で構成されている組合です。

コロナ禍で人の移動が止まり、私たち観光業に携わる事業者の多くが休業を余儀なくされた厳しい状況の中、持続可能な社会を見つめなおそうと思いました。滋賀県でも地球温暖化の影響で豪雨災害や竜巻、雪害などが増え、琵琶湖の生態系にも変化を及ぼしています。

私たちの暮らしや産業の発展に欠かすことのできない貴重な資源でもある琵琶湖を守り、次世代に豊かな自然を引き継ぐために、私たちにできることから始めようと考えました。

具体的には、お客様に提供しているプラスチック製で使い捨ての歯ブラシや髭剃り、くしやブラシなどのアメニティが一度きりで捨てられてしまうことを危惧し、これらの削減を目標に掲げました。また、お客様に使い慣れた歯ブラシなどのアメニティをご持参いただき、環境に配慮した新しい形の旅の提案を行い普及させたいと考えております。

2022年度の宿泊客数などから推定したアメニティなどのゴミの調査結果によると、アメニティの提供を0にすることによって廃棄量40トン、CO_2排出量300トンが削減されることが見込まれます。

▲客室設置のメッセージカード

▲アメニティーの持参を呼びかけるポスター

▲組合で導入を推奨している代替えアメニティ

滋賀県旅館ホテル生活衛生同業組合

住所：滋賀県大津市打出浜13-22　**TEL：**077-522-2553　**FAX：**077-525-1779
HP：https://www.shiga-ryokan-kumiai.jp/
設立：1959年7月
事業の目的：同業組合

風光明媚な琵琶湖は滋賀県にとって大切な観光資源でもあります。その魅力を後世にも引き継ぐため、お客様に歯ブラシなどのアメニティを持参してもらうように、ご理解ご協力を促し、持続可能な未来のため、美しい滋賀県に多くの観光客が訪れてくださるよう、使い捨てプラスチックの削減を通し、CO_2ネットゼロの取組をすすめてまいりたいと思います。

理事長
前川 為夫さん

プラスチックごみ
削減の取組紹介
vol.10

ウォータースタンド株式会社（草津市）

プラスチックごみを減らそう！

マイボトルへの給水による使い捨てプラスチック削減

弊社は浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」のレンタル事業を行っています。水道水を活用する「ウォータースタンド」は、プラスチックボトルが不要で運搬・回収に伴うCO_2排出もありません。滋賀県をはじめ、2024年1月末現在、全国の自治体・教育委員会と83の使い捨てプラスチック削減に向けた協定を締結しています。これらの協定の下、誰もが給水できるマイボトル用給水機を約3000台設置し、使い捨てプラスチック削減に取り組んでいます。

滋賀県との協定締結式

この取組は、2015年にSDGs・パリ協定が採択され、プラスチックが地球環境に与える影響の大きさを知ったことをきっかけにスタートしました。

協定を締結した神奈川県葉山町では、町庁舎から排出するペットボトルゴミが94%削減されたほか、さいたま市では市役所本庁舎等の職員の執務室へ当社の給水機31基を設置した結果、

市職員が排出したプラスチックボトルごみは10%減少、市役所本庁舎単独では35%の減少につながりました。また、「マイボトルを新たに利用し始めた職員」、もしくは「利用意向を示した職員」は設置後27%増加しているとお聞きしています。マイボトルで水分補給を行う取組は気候変動による熱中症対策にも有効であるため、今後はChatGPTを搭載したAIロボットなどのデジタル技術も活用しながら、より多くの方へマイボトルへの給水を呼びかけて参ります。

給水を呼びかけるAIロボット

ウォータースタンド株式会社

住所：本社：埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-463
滋賀営業所：滋賀県草津市野路8-7-13
TEL：本社：048-657-6731　**HP：**https://waterstand.co.jp/
設立：1969年3月　**資本金：**5,000万円（2023年6月期）
業種：浄水型ウォーターサーバー「ウォータースタンド」・空気清浄機のレンタル

滋賀県では、地球温暖化や海洋プラスチックごみ問題の解決に向けて、地域の皆様や事業者様など様々な主体との連携によるプラスチックごみ削減の取組を広げていくことを共通の目的として、取組を推進しています。
弊社はレジ袋やプラスチックストローを減らすことはできませんが、マイボトルへの給水を呼びかけることで使い捨てプラスチックボトルの削減に貢献することはできます。今後も、「使い捨て」の見直しなどの啓発を通じてライフスタイルの変革を呼び掛け、温室効果ガスの削減や環境汚染の防止等につなげて参ります。

代表取締役社長
本多 均さん

プラスチックごみ
削減の取組紹介
vol.11

クサツエストピアホテル（草津市）

プラスチックごみを減らそう！

プラスチックごみ削減の取り組み

草津市は古くから東海道と中山道の交差する交通の要所として賑わいました。私どもクサツエストピアホテルはJR草津駅から徒歩約3分に位置します。

JR草津駅は東海道本線（琵琶湖線）と草津線を接続しており、京都・大津方面、彦根方面、また信楽への接続となる貴生川方面にも乗り換えなしで移動できる観光・ビジネス・レジャーに適した駅前シティホテルです。

当ホテルでは、環境配慮のため、以前よりシーツやタオルの交換頻度を減らす取り組みをお客様のご協力のもと行ってまいりました。同時にホテル自身の努力として取り組めることも模索してまいりました。現在では、プラスチック使用量を約3割削減した歯ブラシへの転換、ヘアブラシのプラスチック材料にトウモロコシ澱粉を約3割配合、紙包材への変更などのプラスチックごみ削減にも取り組んでいます。また、コンビニなどで使い捨てスプーンが不要となるよう、ステンレススプーンを全部屋に常備しております。歯ブラシ、ヘアブラシは製品スペック通りの削減効果があり、またスプーンについても予想以上のご利用がありました。

今後はアメニティの見直し、プラスチックだけでないゴミ全般の削減やエネルギーの削減に知恵を絞ってまいりたいと考えております。

クサツエストピアホテル

住所：滋賀県草津市西大路町4-32 **TEL**：077-566-3333　**FAX**：077-565-7775
HP：https://www.estopia.jp
設立：1992年7月　**資本金**：1億円
業種：宿泊、宴会、レストラン、ウェディングにも対応するシティホテルの運営および駐車場、テナント賃貸管理

人類の発明の中で最も便利で汎用性のあるプラスチックは私達の生活に欠かせない存在ですが、その一方でプラスチックの生産量と廃棄量の増加により地球温暖化や海洋プラスチックごみ問題の深刻さが増しています。私達も環境汚染問題について向き合い、3R「リデュース」「リユース」「リサイクル」の取り組みを行ってまいります。

代表取締役社長
田中 孝和さん

滋賀県のプラスチックごみ削減の取組等に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

食品ロス削減の取組紹介
vol.1

くら寿司株式会社（大阪府堺市）

ICTを活用した食品ロス削減

くら寿司は、全食材において四大添加物無添加で「安心・美味しい・安い」をコンセプトに、全国に530店舗以上を展開しております。（2023年7月末時点）

従来は、各店舗の店長が、経験や感覚でレーンに流すお寿司の種類や量を決めており、また、流れる商品の時間管理も人の目で確認するなど、担当者によって精度にばらつきがありました。そこで、衛生管理上の視点から、1997年にQRタグによってレーン上の商品の時間を管理する「時間制限管理システム」を導入しました。その結果、システムによって人の目では見逃していた部分がより正確に管理できるようになり、品質管理が向上した半面、廃棄率が上がってしまい、翌年に「製造管理システム」を導入しました。

厨房では、設置されたパネルの画面に「顧客係数」が表示されています。

これは、お客様の滞在時間を3段階で分け、時間の経過ごとに注文する皿数（食べる量）を予想し、数値化して表示しているものです。この数値は、いわば目に見えない「お客様のお腹の空き具合」を可視化したもので、この数値を基に、必要なお寿司の種類と量を予測し、厨房内のパネルから従業員に製造を指示しています。このICTを活用した「製造管理システム」は、業務の効率化にも繋がっています。

製造管理システムの導入・進化により、導入当時12%だった廃棄率が約2%まで減少しました。また、食品ロスの削減だけでなく、常に鮮度の良い商品がベルト上に回るようになるなど、顧客満足度の向上にも役立っています。

くら寿司は回転寿司店ならではの「回転するワクワク感」や「選ぶ楽しさ」を大切にしています。廃棄率ゼロを目指しながら、今後もどうしたらお客様に安心していただきながらお寿司を流せるか、を考えていきます。

くら寿司株式会社

三方よし!!でフードエコプロジェクト推奨店

住所：大阪府堺市中区深阪1-2-2
HP：https://www.kurasushi.co.jp/
設立：平成7年　**資本金**：20億532万円
業種：くら寿司は、全食材において化学調味料・人工甘味料・合成着色料・人工保存料の四大添加物無添加で「安心・美味しい・安い」をコンセプトに国内に530店舗以上、アメリカ・台湾・上海の海外に102店舗を展開。（2023年7月末時点）

くら寿司では、店舗だけでなく、仕入れや加工の段階からも食品ロスの削減に取り組んでいます。獲れた魚を全て使い切る「さかな100%プロジェクト」や、普段あまり食べることがない「低利用魚」を商品化するなど、魚を扱う企業として漁業創生においても力を入れています。これからも漁業従事者様とともに漁業創生に繋がる取り組みを行い、お客様においしいお魚を安定してご提供できるよう努めてまいります。

広報・マーケティング本部
広報部
岡本 愛理さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・
滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

食品ロス削減の取組紹介 vol.2

社会福祉法人近江ちいろば会 ケアハウスピスガこうせい（湖南市）

「もったいない」食堂からできるSDGs 食品ロス削減

私たち近江ちいろば会の事業所活動として業務改善活動があり、そのひとつとして、食堂ができるSDGsとして食品ロス削減を取り上げました。

日ごろから提供する食材の余剰分や保温ジャーに残ったご飯を廃棄するのが「もったいない」という、職員の声がはじまりです。

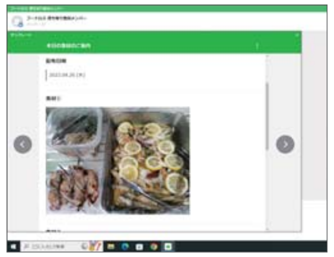
食材の廃棄がでる要因は、材料を発注する時に使用する予定食数と当日に申し込まれる実施食数の差が、余剰食材となってしまうためだということが活動を通してわかりました。その食数差を最小限になるように食数管理を行い、食品ロス削減に取り組んでいます。

また、保温ジャーに残るご飯に関しても、当日の食数からお米の量を計算し炊飯量を決めることで、余剰が出ないようにしています。炊飯したお米の量と、保温ジャーに残ったご飯の量を毎日記録し、お客様の食欲による変動やカレーライス等のメニューによる炊飯量の変動にも迅速に対応できるようにしています。

残飯計測と計量記録

取り組みを実施した結果、予定食数と実施食数の差は、前年度の平均値と比較すると38.4%削減できました。毎日炊飯しているご飯の廃棄量も、取り組み前と比較して30%削減することが出来ました。

それでも当日の申し込み時の食数変動により出てくる余剰食材は、社内のネットワークを使用し、「本日のフードロス」として画像で情報を共有します。その後、時間を決めて希望職員へ安価で販売し、食品ロス削減に努めています。職員販売分の売り上げは、募金などの寄付として社会貢献活動の一環として活用しています。


職員販売用ネットワーク

社会福祉法人近江ちいろば会ケアハウスピスガこうせい

住所：滋賀県湖南市菩提寺327番地4　TEL：0748-74-3900　FAX：0748-74-3910
HP：https://chiiroba.jp/
設立：1995年9月
業種：地域包括ケアの実践として、ケアハウス・グループホーム・デイサービスセンター・ヘルパーステーション・居宅介護支援センター・訪問看護ステーション・小規模多機能型居宅介護事業所などを展開

近江ちいろば会の食事提供は、基本的に生の新鮮野菜・肉・魚から調理する方式で、美味しい食事を提供することをモットーとしている、いわゆる「直営食堂方式」です。生鮮食材から調理するために、どうしても提供数と調理数の誤差が生じていました。その無駄を改善するためにいろいろ工夫を凝らしています。また、残り食材を職員に安価で提供し、その収益を「赤い羽根募金」に寄付をすることで社会に還元する方式を、昨年から実施しています。フードロス削減につながり環境にやさしいことはもちろん、働く職員にとっても、夕食を作る手間が減り喜ばれています。これからもSDGsを意識した取り組みで経営改善をしていきたいと思っています。

理事長
森口 茂さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

三方よし!!でフードエコプロジェクト

食品ロス削減の取組紹介 vol.3

たねやグループ（近江八幡市）

食品リサイクルの取組み

当社はお菓子の製造と販売を行っています。2000年に制定された食品リサイクル法に対応するために計量機を導入し、食品残さだけで測定項目を7項目設け、飼料化や堆肥化を推進してきました。同法で定められたリサイクル率95%を達成し、98%を目標に日々廃棄物の削減に取組んでいます。

2008年に起こったリーマンショックで困窮されていた、愛荘町にあるサンタナ学園には、少しでもお役に立ちたいという思いから、可食ながらも廃棄することとなった食品を提供しています。2020年にはフードバンク滋賀様とも提携させていただきました。

バームクーヘン MIMI

ふぞろい 栗饅頭

自社の取組みでは、今までは飼料としてリサイクルしていた、バームクーヘンを丸太からカットする際に出る“みみ”の部分を商品化し、「MIMI」として販売しています。また、生地がへこんでいたり、焼きムラがあったり、すこし不揃いになってしまった栗饅頭は、かたちや表情はちがっても素材を活かしたおいしさは変わりない「ふぞろい 栗饅頭」として、大きさなどが規格外となってしまったリーフパイは「今できることリーフパイ」としてそれぞれ販売しています。今後も少しでも捨てられる物を減らし、地球環境に配慮したお菓子づくりを通じてその豊かさを守り続けます。

たねやグループ

住所：滋賀県近江八幡市北之庄町615-1
TEL：0748-33-6666　FAX：0748-31-3800
HP：https://taneya.jp/
設立：1872年　資本金：9000万円
業種：食品製造業・小売業

「輸入してまで捨てる国、日本」食料自給率が40%であるにもかかわらず、毎日一人あたりお茶碗一杯分の食品廃棄があるという事を聞き、大きなショックを受けました。法律での取組みだけなく、それ以上にモラルが問われているのではと思います。事業者だけでなく、毎日の個人での取組みとの両輪で食品ロスの削減し、食品ロス0を目指しましょう。

経営企画室
リーダー 木田 幸司さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

食品ロス削減の取組紹介 vol.4

ねこライフ（近江八幡市）

規格外の原料の利用

私たちは地元産の原料を使ってお菓子作りをしています。おいしいものを作るのにあえて値段の高いものを使うよりも、捨てられるものを工夫次第でおいしく安いものに作り替えることでお客様に喜んでもらいたいという思いから、エコでお菓子を作る新しい形のお店 【New Eco life】Neco Lifeを立ち上げました。規格から外された り商品にならなかったりするものを生産者さんから安く分けていただき、それらを加工してお客様に安く提供しています。廃棄される材料を、喜んでもらえる商品に作り替えることにやりがいを持っています。生産者からは、捨てなくてはならなかったものを再利用できることについて、お客様からは、安くておいしいお菓子を作ってもらえるということについて喜んでもらっています。農家さんとも提携して、地元産の規格外の野菜を使った新しい商品の開発にも取り組みたいと思っています。

規格外の卵

ねこライフ

住所：滋賀県近江八幡市小船木町109
TEL：080-4025-5420
設立：2019年4月30日
業種：規格外の材料を使った、シフォンケーキ・プリン・ラスクを中心とした焼き菓子の製造

地元産の卵、牛乳、小麦粉を使って焼き菓子を作っています。特にたくさん使う卵は規格外のものを使っています。養鶏場さんではじかれた卵をあえて使うことで食品ロスが少しでもなくなるように、新しい形として再利用できるようにお菓子作りをしています。最近は規格外の丁子麩を使って丁子麩ラスクを作りました。新しい近江の味として広めたいと思っています。

代表者 古保志 美佐代さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477 FAX:077-528-4845

三方よし!!でフードエコプロジェクト

食品ロス削減の取組紹介 vol.5

一般社団法人 フードバンクながはま（長浜市）

地域連携をフルに活かした長浜市食品ロスゼロ市計画

当法人は「あなたの家のもったいない そこから始まる支援のカタチ」をスローガンに、長浜市を中心に滋賀県北部で活動しています。2018年からフードバンクの活動をスタートし、2020年以降のコロナ禍により食に困られている方が急増した実態を受けて、本格的にフードバンク事業を行いました。現在は、長浜市の委託事業で生活困窮者支援、子育て世帯支援、学生支援、緊急食料支援を行っています。その一方で、食品ロス、食材ロスゼロを目指し、長浜市を「食品ロスゼロ市」とすることを公言し取り組んでいます。

食品ロス削減の取組内容：

①市内18箇所へのフードボックス設置による家庭の食品ロス削減の取組：行政、社協、民間企業様のご協力の元、食品回収の呼びかけと食品ロスの周知活動を実施しています。

②農家さんの食品ロス削減の取組：当法人では他のフードバンクが集められていない野菜類も常時回収の対象にしています。

農家さんから回収した玉ねぎ

③回収食品による炊き出し支援：回収させて頂いた食材や、野菜などを使用して、3ヶ月に1度炊き出し支援を実施。生活に困っておられる方に無料の生活相談会も同時に実施しています。

④給食センターとの連携による食品ロス削減：長浜市の給食センターと連携し、急な学校閉鎖、学級閉鎖時に発生する給食に使う材料の食品ロスの救助も実施しています。

食品ロスの削減効果は、フードボックス年間1,200kg、農家さんからの野菜、米関係3,000kg、給食センター関係500kg、合計4,700kgです。

今後の取組みでは、県内での食品ロスのマッチングを目指します。例えば南部では〇〇が余って、〇〇が不足しているといった地域ごとの食品の過不足の実態を把握し、必要な地域へ食品を循環させて県内の食品ロスをゼロにへする取組みを全県で進めていきたいと考えています。

フードドライブ実施の様子

一般社団法人フードバンクながはま

住所：滋賀県長浜市 **TEL：**080-6147-2373
設立：2018年4月
業種：当法人は、あなたの家の「もったいない」そこから始まる支援のかたちをスローガンに、まだ食べられるのに捨ててしまっている食材、食品を必要とされている方や団体に繋げる活動をしています。

長浜市を食品ロスゼロの市にしていくため、市民の方にフードロスの現状を知ってもらい、市民一丸となって取組んでいく必要があります。ただ、食品ロスを出さないようにと消費に対して消極的になってしまい、経済が回らないといった悪循環にはなってほしくありません。私としては、気軽に食品ロスを削減できるように、フードボックスをスーパーマーケットなどの施設に設置させてもらい、事業者様に食品ロスを身近に感じてもらえていると考えております。また、市民の皆様には、食品の回収・配布などを通じて食品ロスへの関心を持って頂いていると感じております。今後は、小中高校などの子どもたちにも食品ロスを知ってもらい、次世代の長浜市が食品ロスのない街になっていけばと感じております。

代表理事
前田 智博さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477 FAX:077-528-4845

食品ロス削減の取組紹介 vol.6

株式会社ファミリーマート（東京都）

ファミマフードドライブの実施

ファミリーマートでは、「地域社会をファミリー（家族）」と捉え、持続可能な社会づくりに向けて様々な活動を行っています。その中で特に力を入れているのが、「ファミマフードドライブ」の取り組みです。

「ファミマフードドライブ」とは、地域にお住まいの方のご家庭にある「まだ食べられるけれど食べきれない食品」を、近隣のファミリーマート店舗に設置されている専用のボックスに寄付いただくと、協力パートナーである地域の自治体やNPOの方々が定期的に回収に来られ、食支援を必要とする方々に提供されるという、食品ロスの削減と食支援につながる取り組みです。

2021年の4月より全国的な展開がはじまり、2023年10月現在で全国の展開店舗数は約2500店舗、集まった食品の量は130トン超え、協力パートナーの数は約380団体にのぼります。

ぜひ、皆様もご家庭にある「もったいない食品」を近隣のファミリーマート店舗にご持参いただき、地域みんなで「コンビニ」なり、地域の支え合いの輪を広げていきませんか。

詳しくは、当社のホームページをご覧ください。

株式会社ファミリーマート

住所：東京都港区芝浦三丁目1番21号
HP：https://www.family.co.jp/sustainability.html
設立：1981年9月1日　**資本金**：16,659百万円
業種：コンビニエンスストア

2023年9月現在ファミリーマートは滋賀県に153店舗あります。2022年11月に初めてファミマフードドライブを開始し、現在は合計4店舗で取り組んでおります。ファミマフードドライブの輪を更に広げるため、食品の回収にお越しいただき、支援が必要な方へ届けていただける協力パートナー様を随時募集しております。ご家庭にある食べきれない食品がありましたら是非店舗までご提供ください。

ファミマフードドライブ滋賀県担当　西本 歩未さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・
滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

三方よし!!でフードエコプロジェクト

食品ロス削減の取組紹介 vol.7

鯖寿司・焼き鯖寿司専門店 さんとく三太郎（長浜市）

食品ロスのゼロを目指して

当社は、鯖寿司、焼き鯖寿司やビワマス寿司のほか、鯖カレーや鯖サンドウィッチなどのカフェメニューを取り入れ、気軽においしく鯖やビワマスをお召し上がりいただけるお店づくりを目指しております。

当社で販売しております鯖寿司は、これまでは賞味期限が近づくにつれて酢飯が固くなってしまい、廃棄しておりました。鯖はまだおいしく食べることができるにもかかわらず廃棄することになるため、勿体無いと感じておりました。

ビワマス棒寿司

極上焼き鯖寿司

鯖の和風おじや

そこで、賞味期限が近づいたお寿司を火にかけ、鯖のおじやにアレンジすることにいたしました。ネギと卵を入れれば和風おじやに、チーズとバターを入れればリゾット風おじやに。また酢飯を使っているため酸辣湯（サンラータン）のような味わいになります。また、販売に際しては、リーズナブルと感じていただけるような価格設定で提供いたしております。

この取り組みを始めたことで、多少ではありますが食品の廃棄を減らすことができました。

今後は、鯖を加工する際に排出される食品廃棄物の活用を課題に考えております。

三方よし!!で フードエコ プロジェクト 推奨店

さんとく三太郎（株式会社三徳）

住所：滋賀県長浜市余呉町東野370-2
TEL：0749-86-2105　**FAX**：0749-86-2106
HP：https://www.santoku-santaro.com
設立：平成29年
業種：鯖寿司、焼き鯖寿司専門店

弊社のゴミの半分以上は、工場で加工される際に排出される鯖の骨、アラ、昆布やかんぴょう、野菜の切れ端、そして賞味期限切れのお寿司です。手を加えれば美味しく食べられたり、養殖の魚の餌や野菜の有機肥料にもなります。自然豊かな、心が洗われる滋賀の景色を子どもたち、そのまた子どもたちにも見て感じて欲しい。そんな思いを胸に、今後も食品ロスをゼロを目指して取り組んで参ります。

代表取締役
大澤 剛人さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・
滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

食品ロス削減の取組紹介 vol.8

株式会社バローホールディングス（岐阜県多治見市）

フードドライブ～食品ロス削減＋地域のみんなをおなかいっぱいに!～

私たちは1958年に岐阜で創業し、スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンター、スポーツクラブなどの事業を東海北陸、近畿地方を中心に展開する企業です。

食品を取り扱う企業として、食品を販売するだけでなく、食品を無駄にせずおいしく食べていただくという使命があると考え、てまえどり運動などの食品ロス削減の取り組みを始めました。また、将来を担う子どもたちに着目し、地域の子どもを育てる、人々に身近な存在でありたいという思いから、食品ロス削減と食品の提供を同時にかなえるフードドライブ活動を始めました。

具体的には、バローグループ店舗でのフードドライブポストの常設によって、お店でいつでも食品をお受けしています。お預かりした食品は地域の子ども食堂や社会福祉協議会などを通して、食品を必要とされる方にお届けしています。

食品を購入してポストに入れていただく場合もあり、食品ロスの削減効果を数値で示すことは難しいのですが、日頃ポストには継続的に食品を入れていただいています。

今後はより多くの店舗にポストを常設し、フードドライブ活動を通した食品ロスの削減、子どもの食支援を拡大します。

フードドライブポスト
常設店舗一覧

株式会社バローホールディングス

住所：岐阜県多治見市大針町661番地の1　**TEL**：0574-60-0861　**FAX**：0574-60-0689
HP：https://valorholdings.co.jp/　https://www.instagram.com/valor_sustainability/　https://valor-sustainability.amebaownd.com/
設立：1958年7月　**資本金**：13,609百万円
業種：バローグループはスーパーマーケット、ドラッグストア、ペットショップ、ホームセンター、スポーツクラブなど、地域の多様なニーズに応える事業を展開。近年ではホームセンター事業での生活支援サービスや惣菜専門店「デリカキッチン」を展開し、人々の暮らしに豊かさをもたらす、地域に根ざした製造小売業へ進化していきます。

お客さまに食品をお届けするだけではなく、食の大切さ、また食を通して、人とつながることのぬくもりも伝えていきたいという思いで日々活動しています。そして将来を担う子どもたちを地域のみんなで育てる、そのみんなの中にバローグループも入っていたい。そのためのツールの一つがフードドライブポストです。私の地元でもある滋賀県の子どもたちがおなかいっぱいになれること、すこやかに成長されることを願っています!

サステナビリティ推進室　冨永 澪さん

バローグループ
サステナビリティ推進活動
イメージキャラクター
みちこちゃん

Instagramで
最新情報を
発信中!

三方よし!!でフードエコプロジェクト 推奨店

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

三方よし!!でフードエコプロジェクト

食品ロス削減の取組紹介 vol.9

Macaron&chocolat FUSE～フューズ～（大津市）

マカロンからクッキーを（手間を惜しまないで食品ロス削減）

もともとホテルやレストランでパティシエとして働きながら、2022年12月に念願のお店「FUSE」をオープンしました。常々、食品ロス削減には関心があり、生菓子の賞味期限が切れて廃棄されるのをいつももったいないと考えていました。自分の店をオープンするにあたり食品ロスを出さないことをまず考え、日持ちのするマカロンとショコラを作ることにしました。

マカロンやショコラはロスが少ない商品ですが、それでも必ず焼きムラや破損は出てきます。マカロンの製造過程で焼きムラがあるものや破損したものは、マカロンの皮を細かくくだいて、マカロネージュというオリジナルクッキーに生まれ変わらせます。

作製後破損したマカロンは、お客様に「食品ロス削減にご協力ください」とお声がけして、1つお渡しさせていただいています。

粉末にしたマカロンの皮を加えて作ったマカロネージュ▶

また、原材料でも食品ロスが出ないように心掛けています。

例えば、バニラは本来なら使用した後のサヤを廃棄処分しますが、洗って乾燥させミルミキサーで粉末にし使い切ります。これも素材そのものを全て使い切り、商品を通して還元していける食品ロス削減の一環だと思っています。

廃棄するのではなく活用し、ロスになる食材を限りなくゼロにしていきたいと思っています。

マカロンとショコラの専門店「FUSE～フューズ～」

住所：滋賀県大津市島の関12-11
instagram：https://www.instagram.com/fuse_macaron_chocolat/
設立：2022年12月
業種：マカロンとショコラの専門店

お店は、大津市の京阪島ノ関駅から徒歩2分で、琵琶湖まですぐの住宅街の一角にあります。売り場と工房が連結していますので、マカロンやショコラを作っているところを見ていただけるかもしれません。一つひとつ丁寧に気持ちを込めて手作りで仕上げています。色とりどりのマカロンがお店には並んでいますので、是非お立ち寄りください。私たちは美味しいお菓子を作ることはもちろん気持ちの良い挨拶と笑顔を心掛け、ごみとロスを最小限にすることで琵琶湖の環境を守ることにも尽力して参ります。

オーナーシェフ
布施 文彦さん

三方よし!!でフードエコプロジェクト 推奨店

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。

よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

食品ロス削減の取組紹介 vol.10

株式会社FastFitnessJapan（東京都）

エニタイムフィットネスがフィットネスジムならではの食品ロス削減活動を滋賀県全店舗で実施!!

株式会社FastFitnessJapanは、24時間年中無休のマシン特化型ジム「エニタイムフィットネス」を日本で運営する企業です。エニタイムフィットネスは国内で1100店舗以上運営しており、国内はもちろん世界中の店舗を相互利用可能なフィットネスジムです。全国各地で地域と密着した社会貢献活動も積極的に実施しています。

その中で、滋賀県の食品ロス削減の県民運動「三方よし!!でフードエコプロジェクト」を拝見し、滋賀県の会員さまと共に、フィットネスジムならではの食品ロス削減活動を実施し、この活動に貢献したいと考え、次の取組を始めました。

1つ目の取組が、非営利団体フードバンク滋賀と連携し、食品の寄付を受け付け、食糧支援を必要とする人々に提供するフードドライブ活動で、滋賀県全11店舗で実施しています。（実施期間は各店で異なります。）このフードドライブ活動を「SDGsダイエット」と称し、家庭で余る食品とお腹に余る脂肪をダイエットして、食品ロス削減と余分な贅肉削減を目指そうと会員様に促しました。多くの会員様にこの活動にご参加いただき、令和4年は112.2kgの食品を回収しました。2つ目の取組が、食品を無駄なく使う健康レシピ「SDGsヘルシーレシピ」を会員様に提供する取組で、レシピを通じて食品ロス削減を呼び掛けました。

今後も滋賀県店舗では「三方よし!!でフードエコプロジェクト」に賛同し、滋賀県の皆さまと共に食品ロス削減の取組を実施していきます。

株式会社FastFitnessJapan

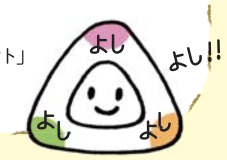
住所：東京都新宿区西新宿6-3-1 新宿アイランドウイング10F　TEL：03-6279-0861　FAX：03-6279-0863
HP：https://fastfitnessjapan.jp/
設立：2010年5月　資本金：2,183百万円（2023年3月31日現在）
業種：スポーツ施設の企画並びに経営、フィットネスフランチャイズの経営、フィットネス事業コンサルタント

滋賀県のエニタイムフィットネスを担当している守口美遊です。いまでは各地で見られるようになった24時間フィットネスジムですが、日本で最初にオープンしたのはエニタイムフィットネスです。24時間年中無休で利用制限なく、いつでも自由に使えますので、トレーニングしたいという気持ちを逃しません。皆さまのライフスタイルにあわせて無理なく続けられます。ぜひ一度、お近くのエニタイムフィットネスにお越しください!

営業統括本部
滋賀県
エリアマネージャー
守口 美遊さん

三方よし!!でフードエコ・プロジェクトとは・・・

滋賀県では、近江商人が昔から大切にしていた、売り手よし・買い手よし・世間よしの「三方よし」の精神をもとに「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に取り組んでいます。ちょっとした心がけで売り手よし!買い手よし!環境よし!と誰もが笑顔で「よし!!」となるプロジェクトに、ぜひご協力ください。



よっしーくん

「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

滋賀県は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

株式会社 大木工藝（大津市）

廃車・廃プラ・廃家電炭化物と下水汚泥炭による人工漁礁・サンゴ礁育成プロジェクト

当社は、「炭化」に着目した「廃車・廃プラ・廃家電炭化物と下水汚泥炭による人工漁礁・サンゴ礁育成プロジェクト」を行っております。

炭化とは、無酸素状態で加熱して熱分解させ、炭素を生成することです。炭化の過程では、CO2をほとんど排出することがなく、できあがった炭も様々な製品へ生まれ変わることができます。

本プロジェクトでは、廃車・廃家電を炭化して残った金属と、下水汚泥を炭化したものを海底に沈めることで、海藻やサンゴ礁を育成する人工漁礁として利活用しています。下水汚泥炭には、腐葉土と同じフルボ酸が含まれており、フルボ酸は、廃車・廃家電の鉄分と結合することで海藻や微生物に必要な栄養分や肥料になります。

金属ワイヤー使用

廃家電

下水汚泥炭

本プロジェクトの原料のもとになっている廃車・廃家電・下水汚泥は、焼却・埋め立てが問題となっています。こうした社会の邪魔者扱いの廃車・廃家電・下水汚泥を最終的に持続可能な海藻育成の資源として有効活用することで、焼却量を減らすことに伴うCO2排出量の大幅な削減を実現できます。

廃車炭化前:約150kg

廃車炭化後:約130kg

令和5年からは東京大学との共同研究が始まり、令和6年より東京湾で実証実験を開始、その2年後には国際論文を東京大学から世界に発表する予定です。

株式会社 大木工藝

住所：大津市中野3丁目4番13号　TEL：077-549-1309　FAX：077-549-1933
HP：http://ohki-techno.com/
創業：昭和45年4月　資本金：7000万円
業種：炭素を極めて創業53年。医・食・住・衣・美容・環境・エネルギー・建築・農業・電極材など幅広い分野の研究開発型製造業です。また、大学と産学連携を行い、海外を含め多くの知的財産も所有しており、炭素に関するプロフェッショナルです。

国連では、陸と比べて数十倍ものCO2を吸収する海藻を、「温暖化対策の切り札」として、新たなCO2吸収源として活用していくプロジェクトが提唱されています。この「ブルーカーボンプロジェクト」にとって、島国の日本は最適な環境と言うことができます。一方で、日本は海外に比べ環境問題に対して後手に回っています。私たちの人工漁礁・サンゴ礁育成プロジェクトは、すでに環境省に三度取り上げられ、注目を集めています。今こそ、このプロジェクトで環境問題に対して世界に一歩リードするべきではないでしょうか。

代表取締役
大木 武彦さん

RECYCLE　REUSE

滋賀県のごみ減量・資源化の取組等に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

有限会社ヤマダ油脂（豊郷町）

廃食油と食品廃棄物リサイクル

当社は昭和53年から廃食油の回収を開始し、昭和55年には本格的に事業として、再生利用を目的とした廃食油の回収事業を始めました。自社再生処理施設で加熱精製後、遠心分離を施し、廃食油に混入している水分、不純物を除去して、再生油を製造しています。製造した再生油は飼料用油脂、インクや石鹸原料に使用される工業用脂肪酸原料、バイオ燃料の原料などさまざまな分野で再利用されています。特に廃食油由来の脂肪酸を原料にしたリサイクル石鹸は、県内の廃食油発生元で利用いただくことにより、地域資源の循環につながっています。今年2月に竣工した新工場では、天かす、フライかすを始めとする、油脂を含んだ食品廃棄物から油脂を搾油し油脂分は再生油に、搾りかすは飼肥料にする新事業を開始する予定であり、食品リサイクルに大きく貢献することを目標に、廃食油にとどまらない地域の資源循環活用に取り組んでいます。

廃食油由来のリサイクル石鹸

小学生を対象にした
環境学習も行っています

食品廃棄物の絞りカス

工場内の様子

有限会社ヤマダ油脂

住所：滋賀県犬上郡豊郷町大字四十九院617-1
TEL：0749-35-3527　**FAX**：0749-35-3547　**HP**：http://yamadayushi.jp/
創業：1980年（昭和55年）　**資本金**：300万円
業種：産業廃棄物・一般廃棄物処理業、廃食油リサイクル、再生油脂及び再生利用製品販売

廃食油のリサイクルはもとより、あらたに食品廃棄物のリサイクルを開始しました。フライくず、食肉加工品、油脂を含んだ食品の廃棄物などリサイクルのご相談を承ります。また、リサイクル石鹸を活用した資源循環や廃食油リサイクルをテーマに小学生を対象とした環境学習を実施するなどの、SDGsに活かせる取組みも積極的に行っております。

代表取締役　山田 博次さん

RECYCLE　REUSE

株式会社ケントム（甲良町）

ビワクルエコ製品

廃木材のリサイクル

当社は、道路舗装業の専門業者である株式会社明和建設のグループ会社として平成16年に設立しました。一見、廃木材は簡単にリサイクル出来そうですが、実際はリサイクル率が低く、現在の木くずのリサイクルの主流は粉砕してチップ化することです。そこで当社は、廃木材をさらに有効利用できないか考え、炭製品にリサイクルすることに着眼しました。

炭はもともと燃料として使用されていましたが、近年は炭の研究が進みそれ以上の有効性が解明されました。具体的には吸着力、通気性、保水性、透水性があり、土壌の改良や飼料に混ぜる事により農畜産業に有効利用することもできます。当社では間伐材や風倒木等の廃木材を原料に炭製品の住宅床下調湿材を製造しています。

炭の特性により湿度を調節し、カビやシロアリ、ダニなどの発生を防ぐことができ、保温効果もあるため環境にも優しいものになっております。他にも、炭製品の農業用土壌改良剤やエアコン工場の濾過材などを廃木材から製造しています。

廃木材から作られた木炭

炭化炉

製品出荷時荷姿

今後は、廃木材から作った、環境面に配慮した炭製品を更に広く皆様に知ってもらい、利用していただきたいと考えています。

株式会社ケントム

住所：滋賀県犬上郡甲良町493-2　**TEL**：0749-38-8177　**FAX**：0749-38-8178
HP：http://www.meiwa-kensetsu.com/kentom/index.html
創業：平成16年8月　**資本金**：86,000千円
業種：炭・竹炭の製造、販売

当社は平成16年より炭製品を製造販売しており、今年で20年目に入ります。現在では炭を土壌改良材としてだけでなく、成形炭の原料や、濾過材としての使用など用途の拡大に力を入れております。
近隣農家様向けの木炭入り牛ふん堆肥も販売しており、地元地域に必要とされ続ける企業を目指して、今後とも尽力いたします。

代表取締役　川村 彰彦さん

RECYCLE　REUSE

Aカンパニー（大津市）

琵琶湖グラス

琵琶湖シーグラスの講演･ワークショップと アクセサリー販売

Aカンパニーは、元吉本興業で舞台ダンサーだった南あきが、司会･講演･研修･キッズダンスイベント企画事務所として平成28年に設立しました。

「琵琶湖グラス」の取り組みを始めたきっかけは、コロナ禍で琵琶湖1周235kmを回った際にシーグラス（漂流ガラス）があることに愕然とし、発信の使命感にかられたことです。琵琶湖岸で採集することのできるシーグラスを琵琶湖グラスとして、アクセサリーやインテリア雑貨を製造し小売店に納品しています。そのほか、環境イベントや講演などでも琵琶湖グラスについて発信しています。

琵琶湖グラスを使って作ったアクセサリー

ワークショップの様子

グラス拾い

そして、毎週作家の方々と琵琶湖岸に出向き、ゴミを拾う傍らシーグラスを採集･洗浄･消毒し、世界に2つとないオリジナル作品を製作しています。

私たちは、SDGsの目標が達成される予定である2030年に琵琶湖グラスを廃業することを目標としていますが、現在、残念ながらその目途が立たないくらいシーグラスが存在していると考えられています。

この事業をはじめて以降、滋賀のみならず東京･福岡･愛媛･大阪などでイベントの開催や百貨店への出店などをしています。シーグラスのさらなる削減に向け、今後は滋賀県SDGsツアーや世界に向けた発信にも取り組んでいく予定です。

琵琶湖グラス▶

Aカンパニー（エーカンパニー）

住所：大津市和迩中679-1　**TEL：**090-3995-0203　**FAX：**077-535-0539
HP：https://raku-sdgs.com/（楽SDGs）　http://biwakoglass.com（琵琶湖グラス）
創業：平成28年1月
業種：司会･講演･研修･イベント企画／琵琶湖グラス　商品の製造販売･講演

元吉本興業で舞台ダンサーを経て、Aカンパニーを設立しました。常に無いものを創造し人の感動を産み出すを理念にしております。今回、コロナ禍で琵琶湖と向き合い「琵琶湖グラス」を創造することができました。アクセサリー･インテリア雑貨の作品だけではなく、SDGs滋賀観光ツアー･オモロイ環境教育･県民の琵琶湖活用や遊びで琵琶湖愛を深めるきっかけになればと考えています。今後は、作品やワークショップに至らない漂流ガラスを粉砕し、材料として活用するBtoBビジネスにも力を入れていきたいと思っています。

代表
南 あきさん

RECYCLE　REUSE

滋賀県のごみ減量･資源化の取組等に関するお問合わせ
滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課
TEL:077-528-3477　FAX:077-528-4845

受賞者紹介

令和5年度 滋賀県 食品ロス削減 優良取組表彰

田中酒造株式会社

滋賀県甲賀市甲賀町大原市場474番地

廃棄していた酒粕の積極的な活用と地域連帯

田中酒造㈱は日本酒の製造･販売を行っており、製造過程で発生する酒粕を活用した食品ロス削減に取り組んでいます。酒粕は、かつては奈良漬などに活用されていましたが、近年はあまり活用されず、産業廃棄物として処分されています。そこで、新たな活用方法を模索し、酒粕を用いたマカロンやポルポローネ（クッキー）、パンを県内の就労支援所と連携して製造しています。さらに、酒粕と同様にお酒を造る過程でできる米麹とも組み合わせ、酒粕･米麹を健康食材として使用した料理のレシピを紹介し、毎週末にランチとしての提供も行うことで、酒粕の魅力を発信していま す。

毎週末に提供する酒粕を用いたランチ

ポルポローネ製造の様子

このような新たな形での酒粕の活用を通して、酒粕の廃棄量を年間1トン以上削減することに成功しました。廃棄していた製造副産物を、創意工夫を凝らして活用し、地域と連携して、地域の特産品として、また健康食材として活用しています。

酒粕を取る様子

さけかすまかろん

甲賀流白玉爆弾ポルポローネ

パン de 酒粕

受賞者コメント

この度は、令和5年度「滋賀県食品ロス削減優良取組表彰」の受賞にあたり当社並びに酒粕を評価いただきまして大変ありがとうございます。日本酒造りは長い歴史と伝統の中で育まれてきた技能の継承と自負しております。また、酒粕は優れた栄養価で健康と美容に大変良いものと認知されています。しかしながらそのような資源が廃棄されている現状がとても残念でした。

今回、多くの方々の助けを受けながら優秀な食材として酒粕が見直されていることは大変嬉しいことでもあり、酒造りを担うものとして励みになっております。

酒粕の効能、能力からするとまだまだほんの一部の活用に過ぎません。これからも酒造りと伴って取り組んで参りたいと思います。

受賞者紹介

令和5年度 滋賀県 食品ロス削減 優良取組表彰

一般社団法人フードバンクながはま

滋賀県長浜市難波町483

地域連携をフルに活かした長浜市食品ロスゼロ市計画

フードバンクながはまは、「あなたの家のもったいないそこから始まる支援のカタチ」をスローガンに、長浜市を中心に滋賀県北部でフードバンク活動を行っています。

食品ロス削減に向けた活動として、長浜市内の18か所にフードボックスを設置し、行政等と連携して、市民のフードバンク参加を呼び掛け、家庭での食品ロスの削減や、削減に向けた機運の醸成につなげています。

給食センターから回収した食品

炊き出しの様子

また、市場に出ることなく捨てられてしまっていた規格外野菜等も常時回収の対象にし、異文化交流センターや介護施設、子ども食堂等に提供しています。そのほか、市内の給食センターと連携した学級閉鎖時等の食品の回収や、回収した食材や野菜などを使用した炊き出し支援を実施しています。

上記の活動により、長浜市や社会福祉協議会、農家、学校、住民、企業など、多様な主体との連携を通じて、地域で一体となって食品ロス削減に取り組んでいます。

フードドライブ実施の様子

フードドライブで集まった食品

受賞者コメント

この度は栄えある賞をいただき誠にありがとうございます。

当法人は『あなたの家のもったいないそこから始まる支援のかたち』をスローガンに日々、食品ロス削減、そしてアフターコロナや近年の物価高騰の影響を受けて生活に苦しんでおられる世帯への食品提供を実施しております。しかし、これらの取り組みは私たちだけでは決して実現することができませんでした。長浜市すべての関係機関（市役所、長浜市社会福祉協議会、農家の皆さん、学校／給食センター、住民さん、企業様）が自分ごととして一緒になって取り組めたことで、食品ロスの削減に貢献できたと考えております。

今後も長浜市一致団結して、必ず長浜市食品ロスゼロ市を実現できるように取り組んで参ります。この度はありがとうございました。

受賞者紹介

令和5年度 滋賀県 食品ロス削減 優良取組表彰

農業生産法人株式会社アグリケーション

滋賀県草津市北山田町2229-1

野菜残渣循環型農業と減プラでおいしいネギをお届けします

㈱アグリケーションは、刻みねぎ・青ねぎを生産し、加工しています。製造過程で出る野菜残渣を堆肥化し、有効活用することで食品ロスを削減しています。

ネギの栽培風景

土づくりの様子

また、ネギの容器包装については、プラスチックを75%削減した包材を新たに採用しました。パックではなくチャック付きの袋に変更したことで密封度が強化され、従来品よりも消費期限を1日延長させることに成功しています。こうした環境配慮の取組について、㈱平和堂の全店舗の売り場で MLGsロゴを使用したPOPを通じて消費者に呼び掛けています。

◀㈱平和堂における展開の様子

そのほか、地域の小学校を対象に食育活動を行っており、子どもたちが資源の循環により仕上げられた土や野菜ができる過程に触れる機会を設けることで、環境意識の醸成にも寄与する取組となっています。

食育活動の様子

受賞者コメント

この度は栄誉ある賞をいただきとても光栄です。誠にありがとうございます。

滋賀の農業は琵琶湖の恵で成り立っています。私たちは引き続き、限られた地域資源を活かした栽培技術の研究を進め、未来につながる持続可能な農業「環境保全型有機農業」を周知し、環境に配慮した栽培で大切な琵琶湖を後世に繋げたいと考えています。

琵琶湖の水で育った滋賀野菜の魅力や美味しさを伝える食育活動により、1人でも多くの皆様に野菜を好きになってもらい、食品ロス削減やMLGsの達成に貢献できるように精進してまいります。

しがプラスチックチャレンジプロジェクト

滋賀県では、令和5年10月から、県民の皆様に対し、ライフスタイルを見直し、プラスチック代替製品の利用、マイボトルの持参などプラスチックごみ削減に向けた実践行動のチャレンジを後押しする「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」を展開しています。

「しがプラチャレンジの日」

毎月一日を「しがプラチャレンジの日」とし、プラスチックごみ削減に資する行動をとる特別な日と捉え、ライフスタイルを切り替える機会とします。皆様のチャレンジをサポートするため、毎月発行する「プラチャレ通信」で実践行動の例をご紹介します。また、「しがプラチャレンジの日　テーマソング」やプラごみ問題や実践取組に関する動画配信等も行っております。
プロジェクトの詳細については、滋賀県ホームページ「ごみゼロチャレンジしが」をご確認ください。

▲ 湖神 挑一
（プロジェクトキャラクター）

毎月ついたち
しがプラチャレンジの日

滋賀県食品ロス削減推進計画の概要

■計画の理念「三方よしと県民総参加でフードエコ」の概要

「売り手よし!」、「買い手よし!」、「環境よし!」の「三方よし」の精神のもと、
県民総参加で「食品（フード）」の「環境保護への取組（エコ）」を実践。

■施策の方向性と基本的施策

（1）知識や意識の向上と具体的な行動の実践
（2）食品ロス発生量等の実態把握
（3）未利用食品を有効活用する仕組みづくり

■求められる役割と行動

- 県民一人一人が食品ロスの問題を「我が事」として捉え、「行動」に移すことが必要。
- 消費者、事業者、マスコミ・消費者団体・NPO等、県、市町が、それぞれに「求められる役割と行動」を実践するとともに、各主体が連携し、食品ロス削減の取組を推進。

▲計画の詳細は、滋賀県ホームページをご覧ください。

滋賀県ごみ減量・資源化情報サイト

「ごみゼロチャレンジしが（滋賀県ごみ減量・資源化情報サイト）」では、事業者や団体、行政が実施するごみ減量などの取組に関する情報や3Rの実践例、補助金情報などを提供しています。

また、子ども向けの「キッズ教室」ページや、食品ロス削減や資源の店頭回収情報などを掲載して、皆さんに使いやすいサイトを目指しています。

https://www.pref.shiga.lg.jp/gomizero/index.html ▶